

とっておきの子育ての話

保育者からの
メッセージ



お子さんの発達に 心配のある方へ

(保護者・外部専門家・保育者からのメッセージ)

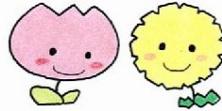


仙台市の保育施設では、特別支援保育
(プラス支援保育)を行っています。
入所している保護者や外部専門家、保
育者からのメッセージを紹介します。



平成20年3月編集・発行
平成24年9月改訂
令和 8年 3月改訂
仙台市こども若者局
幼稚園・保育部 運営支援課

保護者から



私のこどもは歩けないため保育所への入所を諦めていましたが、プラス支援保育の障害の程度の受け入れ枠が広がったのをきっかけに入所を希望しました。

入所した時は加配の先生とどのような椅子を使用するかオムツ交換の仕方をどうするか等細かい部分も話し合うことができ、安心してこどもを預けています。また、クラスのお友達もこどものことをしっかりと受け入れてくれ、仲良しのお友達が沢山できました。入所してからできることも沢山増え、先生やお友達のパワーってすごいなと感じています。

息子は泣き虫なので最初はお友達から嫌がられないか心配でした。入所してすぐ先生やお友達が「明日も待ってるね」と声をかけてくれ、心が救われました。お友達が見本になり真似することを覚えた息子はみんなから応援してもらい、ひとつずつ出来ることを増やしています。家以外でご飯を食べられなかった息子も今や給食完食の日が見られ、家族でのお出かけも前より楽しくなりました。心から感謝しています。

入所前は先生やお友達に迷惑をかけないか、受け入れてもらえるか心配していました。しかし、お友達が優しく声をかけてくれたり、できたことをクラス全体で認めてみんなで喜びを分かち合ってくれたりしています。同時にそれが本人の自信につながっているようでした。遠足でお友達と手をつないで歩くこどもの姿を見た時は感動しました。

先生方にも親身に話を聞いてもらい、困ったことは一緒により良い方法を模索しています。

外部専門家から

インクルージョンの考え方は、これまでも保育や教育の現場で大切にされてきましたが、近年は「こども基本法」の施行などを通して、社会全体の共通の考え方として改めて重視されるようになってきました。

こうした流れの中で仙台市では、特別な支援が必要なお子さんが、保育施設でほかの子どもたちと共に生活し、成長していけるよう、「特別支援保育（プラス支援保育）」を実施しています。各保育所では、専門家の助言やスーパーバイズを受けながら、職員同士で学び合い、よりよい関わりや環境づくりに日々取り組んでいます。また、医療的ケアが必要なお子さんの受け入れも本格的に始まっています。

こうした取り組みは、仙台市がこれまで大切にしてきた「共に育ちあう保育」の実践そのものでもあります。特別な支援が必要な子どもだけががんばるのではなく、まわりの友だち、保育士、そして保護者の皆さんも一緒に学び合い、支え合いながら育っていく保育です。子どもたちは、日々の生活の中で、違いを認め合い、助け合う心を自然と身につけていきます。ぜひ保護者の皆さんにも、その大切な歩みをご一緒に見守っていただければと思います。

宮城学院女子大学名誉教授 足立智昭

保育者から



「〇〇ちゃん、今日こんなことができていたんですよ」「〇〇ちゃん、△△が好きなんだよ！」保育所では、職員からも子ども達からもほっこりするエピソードが日々聞かれ、お互いを仲間として大事にしながら過ごしている様子を感じています。今後も、保育所や保護者の方等、様々なつながりを大切にしながら、一人一人が自分らしく過ごせるように一緒に考えていきたいと思っています。

特別(保育)支援コーディネーター

「どんな遊びが好きかな?」「落ち着ける場所はどこかな?」「どんなことに笑顔をみせるのかな?」好きなことを手掛かりに、日々の生活の中で色々な遊びやまわりの人との関わりを通して、保育所が安心して過ごせる場になるように心がけています。保護者さんの願いや思いをお聞きしながら、お子さん自身の持つ育つ力を大切にしています。一緒に子育てしながら成長を喜び合えることが、私たち保育士にとっても何よりの喜びです。

特別支援児担当保育士